

TOPICS

1. 新入生対象の「図書館ツアー」を実施しました

4月16日・17日・21日・22日の4日間、新入生を対象とした「図書館ツアー」を実施しました。ツアーでは、図書館員が参加者とともに館内を巡りながら、図書館の基本的な使い方や施設設備・各種サービスなど、今後の学習に役立つ情報を約15分程度で伝えました。短い時間ではありましたが、参加してくださった皆さんにとって、図書館について理解を深める良い機会になったことと思います。さらに、1年生の科目「フレッシュマンセミナー」では、1年生全員に「図書館ガイダンス」を実施しています。これからの大学生活の中で、身近な存在として積極的に図書館を活用していきましょう。



2. 学術論文等の「即時オープンアクセス義務化」開始

2025年度から新たに公募を行う競争的研究費を受給する研究者は、その成果となる学術論文及び根拠データの学術雑誌への掲載後、即時に機関リポジトリ等の情報基盤への公開が義務付けられました。

図書館では、該当する学術論文・根拠データや研究成果物の本学機関リポジトリへの登録を希望される方向けに、学内向けポータルサイト「研究成果のオープンアクセス化ガイド」を開設しました。研究成果のオープンアクセス化について、基本情報やその方法、関連サイトへのリンク等をまとめてあります。

アクセス先 URL : <https://sistkanri.sharepoint.com/sites/sistrepository> (学内者限定)

- ・「即時オープンアクセスの義務化」について
- ・機関リポジトリへの研究成果物の登録・公開、の方法について など

研究成果のオープンアクセス化ガイド

オープンアクセスとは
オープンアクセス(Open Access: OA)とは、時間や場所の制約なく、誰もがインターネットで論文等の研究成果に無料でアクセスし、入手できるようにすることです。
論文のOA化、さらに研究データのオープン化であるオープンデータを含め、研究成果の共有・公開を進め、研究の加速化や新たな知識の創造などを促す「オープンサイエンス」の取り組みが世界的に推進されています。

CONTENTS

- ・ オープンアクセスとは
- ・ 即時オープンアクセスの義務化について
- ・ 機関リポジトリへの研究成果物の登録・公開
- ・ 参考資料・リンク集

* ご不明な点
は図書館まで
お問い合わせ
ください。

* 登録申請は、サイト内「学術機関リポジトリ登録・申請フォーム」をご利用ください。

3. 電子ブック：新たに44冊追加しました

2025年度は44タイトルを購入し、累計で516タイトルの電子ブックが自身のPCやスマートフォンからご覧いただけます。キャンパス内では学内LANに接続した機器で、学外(自宅等)からはマイライブラリにログイン後にメニュー「★情報」のリンクから、電子ブックへアクセスすることができます。*教職員の学外アクセスは「学認」をご利用ください。

<購入タイトル紹介>

- 『世界に通じる科学英語論文の書き方』
- 『エッセンシャル社会学事典』・『現代用語の基礎知識 2026』
- 『Pythonで学ぶデータサイエンティストのためのAI』
- 『和風建築シリーズ 全8巻(建築資料研究社, 1982-1999)』
- 『TOEIC L&R テスト文法&リスニング基礎トレ 500問』 など

4. 教員著作物のご紹介

○情報学科 谷口ジョイ先生 著

『ある言語学者の事件簿』
くろしお出版, 2025.2

所在：図書/北 804/Ta67

『国家と民族の行方

：制度と実践がもつれ合う現在』
野林厚志編著, 明石書店, 2026.3

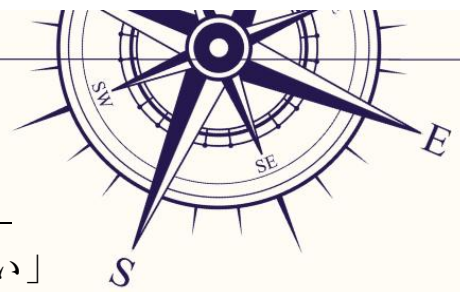
所在：図書/西 316.8/N91

* 第9章「エスニシティと言語継承—なぜことばを継承するのか、しないのか」執筆

読書への羅針盤

齋藤 明広 先生 (物質生命科学系) に聞く

「学びをひらく一冊との出会い」



物質生命科学科の齋藤明広先生は、微生物の力を活用し、農業の化石燃料依存を少しでも減らしたいという思いから研究を進めています。微生物がどのように物質を認識し、変換していくのかを明らかにすることで、農業や化学肥料に過度に頼らない持続的な農業へとつなげたいと考えているそうです。また、微生物利用の現場で見られる不思議な現象を科学的に検証し、新しい微生物や生命現象を見いだす研究にも取り組んでいます。そこには「微生物の力をもっと社会に生かしたい」という強い思いがあります。

微生物研究の道に進むきっかけは、高校時代に読んだ『大地の微生物世界』という一冊でした。この本に強く惹かれ、「この著者のもとで学びたい」と思い、東北大学へ進学されたそうです。子どもの頃は活字が得意ではなく、図鑑は好きだったものの本を積極的に読むタイプではなかったそうですが、中学時代に友人の勧めでアニメ映画を活字化した本を読むようになり、やがて歴史小説や司馬遼太郎の作品へと読書の幅が広がりました。高校時代にいろいろな本を読む中で『大地の微生物世界』と出会い、著者・服部勉のもとで研究するため大学院へ進学、研究の面白さから博士課程へ進み、学術研究の世界に留まることになったそうです。活字が得意でなかった子供が、人生を左右する本に出合って大学教員になるとは、偶然なのか必然なのか。

司馬遼太郎の作品では『花神』がおすすめで、大阪出張の際には作中に登場する適塾を訪ねたそうです。

主人公・村田雑六 (大村益次郎) への思いが重なり、感慨ひとしおで「アニメファンの聖地巡礼の気持ちが分かった気がする」と楽しそうに語っていただきました。

趣味は剣道や筋トレなど体を動かすこと。研究で集中した後に体を動かすことで気分がリフレッシュし、新しい発想が生まれることもあるそうです。研究と運動のバランスを大切にしている姿が印象的でした。

最後に、「家と学校の往復とアルバイトだけで終わらせないでほしい。言われたことを単純にこなしたり受け入れるだけでなく、どうしてそれをするのか、本当にその人の判断が適切なのか (何を考えているのか)、を考えられるようになってほしい。短絡的に判断せず、考え抜く力を身につけてください。そのためには知識と経験が必要です。」と学生へのメッセージをいただきました。研究者としてだけでなく、一人の学ぶ人としての実感がこもっているように感じました。

図書館には、知識を広げる本が数多くそろっています。興味が定まっていない人も、まずは一冊手に取ってみてはいかがでしょうか。そこから新しい世界が広がるかもしれません。

齋藤先生、忙しい中インタビューを受けてくださりありがとうございました。

【所在】『花神』上・中・下 文庫/北 913.6/Sh15

インタビュー・記事：

物質生命科学科 2025 年度卒業生 飯山紗弓

私の選んだ一冊



『懐胎』むつ一 原案・監修；黒十字 執筆協力；東西 イラスト

『懐胎』は TRPG シナリオが元となった小説であり、閉鎖的な空間や少しずつ明らかになっていく不気味さが印象的なコズミックホラーである。目が覚めたら見知らぬ場所にいた…そんな TRPG を回ったことのある人ならおなじみの展開から始まり、物語が進むにつれて隠されていた真実や伏線が繋がっていく。読後にも考察してもう一度読みたくなる点が魅力的で、TRPG を知らない人でも、『懐胎』シナリオを履修済みの人でも楽しめる作品だ。読み終えた後に独特の不気味さが残る作品で、ホラー好きや考察好きにおすすめの一冊である。
(コンピュータシステム学科3年 西野由夏)



『蜜蜂と遠雷』恩田陸 著

この本は、世界的なピアノコンクールを舞台に、音楽にすべてをかける若者たちの姿を描いた小説です。天才的な才能を持つ人や、努力を続ける人など、さまざまな登場人物が悩みながら成長していく姿に夢中になります。一番の魅力は、文字を読んでいるだけなのに、本の中から美しく力強いピアノの音が聴こえてくるような不思議な感覚を味わえることです。クラシック音楽に詳しくなくても、必ず大きな感動をもらえる一冊としておすすめします。
(情報デザイン学科2年 新聞郁也)

林 英昭 先生 (建築学系) の

一手指南

推薦図書

『建築論』

森田慶一 著。 (講談社学術文庫 / 講談社)

本書は「建築とは何か」という問いを主題とする。著者の森田慶一はウィトルーウィウスの『建築書』の訳者として知られ、日本における西洋の古代建築研究の第一人者である。本書は1978年に東海大学出版会より出版されて以来、上記の訳書と並んで図書館の建築関係の書棚には必ず置かれる基本文献の一つである。ここ最近絶版となって手に入りにくい状態であったが、今回、講談社学術文庫から復刊され、一般にも手にしやすい図書となった。

森田が邦訳したウィトルーウィウスの『建築書』は、紀元前20年代に書かれた現存する世界最古の建築技術書である。今日でも繰り返し語られる「建築とは<強・用・美>の三要素の調和によって成立する」という考え方の由来として広く知られ、我々が世界中で目にする西洋建築の古典的な意匠は全てこの書の影響下にあると言っても過言ではない。

また森田は、1920年に東京帝国大学の建築学生らで結成された日本初の近代建築運動「分離派建築会」の一員でもあった。この運動は「我々は起つ。過去建築圏より分離し、総ての建築をして真に意義あらしめる新建築圏を創造せんがために」という宣言文が知られている。

様式主義からの離脱（つまりは新しい建築の創出）を宣言した分離派の思想を念頭に置くと、その創設メンバーであった森田が、西洋古典主義の原典に注力していくのは、一見すると矛盾があるように感じられる

かもしれない。

分離派建築会が結成された時代、建築は明治以来の西洋様式建築を脱し、モダニズム建築へと移行しつつある過渡期であった。「建築非藝術論」などという論文が建築界を賑わせていた時期でもあり、帝国大学において建築設計者として養成された若者らにとって、「建築とは何か」という問いは避けがたい切実な問題であっただろう。

森田はこの「建築とは何か」という問いにとりわけ誠実であったのだと思う。その延長線上に建築の起源へと遡行するまなざしがあったし、彼はウィトルーウィウスにその思索のヒントを見た。ウィトルーウィウスは『建築書』の序において「この書を参照すれば以前に造られた建物も今後造られる建物もそれがどんなものであるかをあなた自身でお知りになることができるように、決定的な教本を書き上げました」と記している。この古代の書もまた「建築とは何か」という問いへの回答を目指していたからである。切実な問いが分離派建築会を生み、誠実な問いが世界最古の建築論に向かわせる。問いの本質は全く矛盾していない。

本書はそうした結論のない命題に、人生をかけて対峙し続けた森田の思索の成果である。私自身が「建築とは何か」という問いに真摯に向かい合う熱量を失わないために、折に触れて紐解きたくなる書の一つである。

【所在】文庫/北 520/Mo66

新着図書紹介

青天 若林正恭著、文藝春秋

大学生のための対話で学ぶ
日本語アカデミックライティング
嶋田大海、小林至道、中竹真依子編著、東京図書

造形ワークショップをつくる
高橋陽一編、武蔵野美術大学出版局

ユニバーサルデザインモビリティの展望
誰もが移動できる社会へ 田中晴美、西山敏樹著、
近代科学社 Digital / 近代科学社

土木…100年後の日本を支える「人の力」
山崎エリナ写真・文、土木学会／丸善出版

人生を変える睡眠術…世界のエリートが実践！
ヒラノマリ著、大和出版

研究開発の考え方…経営と技術をつなぐ
清水洋、鉄川弘樹著、有斐閣

建築を旅する
歴史と地域を楽しむ「建築ツーリズム」のすすめ
倉方俊輔著、イカロス出版

ハーバード、スタンフォード、科学的に証明された
時間をムダにしない人の習慣
堀田秀吾著、アスコム

教養としての量子コンピュータ
藤井啓祐著、ダイヤモンド社

そのほかの
新着情報



「旅のはじまり」

図書館 杉村未来

私がこの図書館に勤め始めたのは、昨年9月のことです。お世話になってから早いもので、8か月が経ちました。文系の道を進んできた私にとって、館内に並ぶ本の多くは、これまであまり触れる機会がなかった分野のものばかりで、日々新鮮な驚きを感じています。学生から本の場所を尋ねられた際には、聞き慣れない専門用語に戸惑い、ご迷惑をおかけしてしまうこともあり

「旅のはじまり」です。本の中ではさまざまな場所へ自由に訪れることができます。今いる場所とは異なる町や国、時代、さらにはまったく別の世界へ——現実には訪れることのできない場所であっても、本の中では自在に行き来できる。それが読書の大きな魅力だと感じています。

また本は、物語を楽しむだけでなく、現実の世界へ踏み出すきっかけも与えてくれます。これまで私は、小泉八雲の作品を通じて島根や焼津の資料館を訪れたり、新選組に関する本をきっかけに京都や会津若松、日野を訪れたりしてきました。

ますが、少しずつ慣れてきたと感じる今日この頃です。こちらで働くようになってからは生活リズムも整い、十分な睡眠を取りながら、読書の時間も確保できるようになりました。私自身、趣味を聞かれれば「読書」と迷わず答えるほど本が好きですが、読書量が特別多いわけではなく、積読も多いため、気づかないうちに同じ小説を三冊も購入してしまったことがあります。

話は変わりますが、みなさんにとって読書とはどのようなものなのでしょうか。私にとって読書は、一言で言えば

読書と一口に言っても、その楽しみ方は人それぞれです。文字を読むことそのものが好きな方もいれば、そこから考えを深めることに魅力を感じる方、知識を広げることを楽しむ方もいらっしゃるでしょう。あるいは、私のように本をきっかけにゆかりの地を訪れることを楽しむ方もいらっしゃるのではないのでしょうか。本が好きな方もそうでない方も、誰もがそれぞれに合った本の楽しみ方を見つけられるよう、お手伝いできればと思っています。

LIBRARY CALENDAR

開館時間： ■ 9:00~18:00 ■ 9:00~20:00 ■ 9:00~16:00 ■ 休館日

6 月							7 月							8 月							9 月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
・	1	2	3	4	5	6	・	・	・	1	2	3	4	・	・	・	・	・	・	1	・	・	1	2	3	4	5
7	8	9	10	11	12	13	5	6	7	8	9	10	11	2	3	4	5	6	7	8	6	7	8	9	10	11	12
14	15	16	17	18	19	20	12	13	14	15	16	17	18	9	10	11	12	13	14	15	13	14	15	16	17	18	19
21	22	23	24	25	26	27	19	20	21	22	23	24	25	16	17	18	19	20	21	22	20	21	22	23	24	25	26
28	29	30	・	・	・	・	26	27	28	29	30	31	・	23	24	25	26	27	28	29	27	28	29	30	・	・	・
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	30	31	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・

- 7月20日(祝)の開館時間 9:00~18:00 | ■ 8月1日(土)定期試験中開館日 9:00-16:00
- 8月5日(水)~9月24日(木)までの開館日の開館時間 9:00~18:00
- 【休館】大学夏期休業 8月10日(月)~13日(木) | ■ 【休館】法人全体研修 8月25日(火)
- 【休館】大学指定の休日 8月27日(木)、28日(金)、9月7日(月)、11日(金)、18日(金)

※開館カレンダーは、状況により変更される場合があります。最新の情報は図書館ウェブサイトをご確認ください。

【編集後記】今年も暑い夏になりそうです。今年の4月、気象庁により最高気温 40℃以上の日の名称が「酷暑日」に決まりました。名前の候補には、「超猛暑日」「極暑日」など、見るからに暑そうな言葉が挙がっていました。「文字を見るだけで暑く感じる」というのは、一字一字に意味を持つ漢字ならではの面白さですね。これ以上、新しい言葉が必要にならないとよいのですが…。